

## 様似を丸ごと体感～アポイ岳ジオパークの取組み～

### Experiencing Samani to the Full-Efforts to Promote Mt. Apoi Geopark

原田 卓見<sup>1\*</sup>

Takumi Harada<sup>1\*</sup>

<sup>1</sup>様似町アポイ岳ジオパーク推進協議会

<sup>1</sup>Mt. Apoi Geopark Promotion Council

2008年12月に日本初のジオパークとして、他の6つの地域とともに認定されたアポイ岳ジオパークだが、その取組みは緒に就いたばかりである。

アポイ岳ジオパークは、新鮮なかんらん岩が露出する世界でも珍しい場所で、その表層には国の特別天然記念物にも指定されている高山植物群落があり、美しい景観は多くの人々を惹きつけている。しかし、そうした素材をジオパークの考え方に沿ってどう見せるのか。私たちが最初に手を付けたのは、それまで単なる名勝や見どころとなっていた場所を、ジオパークの考え方に沿ったジオサイトとして設計し直すことだった。ジオサイトとは地質に限るのか、その他の要素も含めるのか、あるいはどのような視点で見せるのかなど、いろいろと試行錯誤を繰り返したが、最終的には以下の3つのテーマを掲げ、それに沿ったジオサイトを33用意することとなった。

1. かんらん岩から大地の変動を学ぶ
2. アポイ岳の高山植物から自然環境を学ぶ
3. 歴史から自然と人間社会の共生を学ぶ

ジオサイトには、地質以外に植生や地域の歴史文化なども取り入れ、アポイ岳ジオパークを、いわば様似を丸ごと体感してもらう公園として位置づけた。ガイドブックやパンフレット、案内板の整備も並行して進め、特にガイドブックは重厚な内容となった。ウェブサイトやミュージアムの充実も緊急の課題として取り組んでいる。アポイ山麓には手づくりのビジターセンターがあるが、改修により展示内容を大幅に充実すべく、現在作業を進めている。

また、これらインフラの整備と並行して、力を入れているのが住民に対する教育活動だ。地質に限らず植物や磯の生きものを観察するツアー、様似の歴史学習など、アポイ岳ジオパークにおけるさまざまな分野を取り上げることで、住民の理解浸透を図っている。今年はこの流れをガイド養成につなげていきたいと考えている。

地元の小学校では、総合学習にアポイ岳ジオパークを取り上げた。子どもたちは最初、かんらん岩にとらわれがちだったが、ジオパークがその他の地質や動植物、人間活動にも及ぶことを知り、さまざまな視点から地元・様似を考えるようになった。

様似は、漁業が盛んな地域である。特に、アポイ岳周辺は良質の日高昆布が採れる場所で知られている。秋には札幌において日高昆布フォーラムを開催し、アポイの昆布をPRすることにもなっている。ジオパーク活動と地場産業が結びつけばおもしろい。

キーワード:インフラ整備,教育活動,ガイド養成

Keywords: infrastructure, educational programs, first-rate tour guides